

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

# TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

## 東京都感染症週報

2024年第7週  
(2月12日～2月18日)

- \* 2024年2月21日現在の情報により作成しています。  
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。  
<https://survey.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/>
- \* 今週は感染症豆知識「人類と常在菌の共進化」も掲載しています。

令和6年(2024年)2月22日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター  
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)  
FAX：03-5332-7365  
e-mail：tmiph@section.metro.tokyo.jp

## 全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2024年7週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		4週	5週	6週	7週	年累計	7週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	35	36	41	32	225	187	1,634
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 <sup>*1</sup>							
	中東呼吸器症候群 <sup>*2</sup>							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
	鳥インフルエンザ(H7N9)							
三類	コレラ							
	細菌性赤痢			1		1	1	7
	腸管出血性大腸菌感染症	3		4	1	14	26	155
	腸チフス							
	パラチフス	1				1		1
四類	E型肝炎	5	2	2	2	18	8	76
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	1	1	1		3	2	11
	エキノコックス症							
	エムポックス	3	3			7		7
	黄熱							
	オウム病							
	オムスク出血熱							
	回帰熱							1
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							
	ジカウイルス感染症							
	重症熱性血小板減少症候群 <sup>*3</sup>							3
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱							
つつが虫病						1	52	
デング熱	2	1			6	2	19	
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								

\*1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

\*2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。

\*3 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		4週	5週	6週	7週	年累計	7週	年累計
四 類	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱							2
	日本脳炎							1
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症							
	マラリア					1		4
	野兔病							
	ライム病							
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽							
	レジオネラ症	2	2	2	2	16	23	227
レプトスピラ症							1	
ロッキー山紅斑熱								

2024/2/21集計

( 全数把握対象疾患のコメント:一類～五類 )

〈二類感染症〉

**結核 32件(うち死亡 2件)** 患者 23件(肺結核 19件、肺結核及びその他の結核 3件、その他の結核 1件)、無症状病原体保有者 9件、年齢は5歳未満 2件、20代 5件、30代 1件、40代 1件、50代 4件、60代 4件、70代 5件、80代 8件、90歳以上 2件、推定感染地は国内 21件、インドネシア 1件、不明 10件であった。

〈三類感染症〉

**腸管出血性大腸菌感染症 1件** 患者、血清型・毒素型は血清型不明VT1、年齢は30代、推定感染地は国内、推定感染経路は経口感染であった。

〈四類感染症〉

**E型肝炎 2件** 患者 1件、無症状病原体保有者 1件、年齢は20代 1件、70代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は経口感染 1件、経口感染又は動物・蚊・昆虫等からの感染 1件であった。

**レジオネラ症 2件** 患者 2件、病型は肺炎型 2件、年齢は70代 1件、80代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は水系感染 1件、不明 1件であった。

〈五類感染症〉

**アメーバ赤痢 4件** 病型は腸管 3件、腸管外 1件、年齢は20代 1件、50代 3件、推定感染地は国内 2件、ドイツ 1件、ベトナム 1件、推定感染経路は性的接触 2件(異性間 1件、性別不明 1件)、不明 2件であった。

**カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 4件** 病原菌は*Klebsiella aerogenes* 2件、*Enterobacter cloacae* complex 1件、*Klebsiella pneumoniae* 1件、年齢は30代 1件、60代 1件、70代 1件、80代 1件、推定感染地は国内 3件、中国 1件、推定感染経路は以前からの保菌 2件、その他 1件、不明 1件であった。

## 全数把握対象疾患 報告数（五類） 2024年7週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		4週	5週	6週	7週	年累計	7週	年累計
五 類 ( 全 数 届 出 )	アメーバ赤痢	4		6	4	16	9	61
	ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）	1	1	1		5	3	18
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3	3	2	4	25	27	227
	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く） <sup>*1</sup>							3
	急性脳炎 <sup>*2</sup>	1	1	2	2	7	9	88
	クリプトスポリジウム症	1				1		1
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1	1		4	3	22
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	8	8	11	6	57	33	338
	後天性免疫不全症候群	8	6	6	3	40	13	129
	ジアルジア症	1			1	2	1	3
	侵襲性インフルエンザ菌感染症			1	1	5	7	92
	侵襲性髄膜炎菌感染症							6
	侵襲性肺炎球菌感染症	12	7	1	4	43	44	417
	水痘(入院例に限る)	1	1			5	4	42
	先天性風しん症候群							
	梅毒	62	75	50	72	424	143	1,485
	播種性クリプトコックス症	1	1			5		20
	破傷風						2	9
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		1			1	3	19
百日咳	1		2		6	8	66	
風しん								
麻しん				1	1	1	1	
薬剤耐性アシネトバクター感染症								
2024/2/21集計								

\*1 2018年5月1日より追加指定された。

\*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

**急性脳炎 2件** 病原体はインフルエンザウイルス 1件、不明 1件、年齢は5歳未満 2件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 2件であった。

**劇症型溶血性レンサ球菌感染症 6件(うち死亡 3件)** 血清群はA群 4件、G群 2件、年齢は40代 1件、50代 1件、60代 3件、70代 1件、推定感染地は国内 5件、不明 1件、推定感染経路は接触感染 1件、不明 5件であった。

**後天性免疫不全症候群 3件** 病型は無症候キャリア 3件、性別は男性 2件、女性 1件、年齢は40代 2件、50代 1件、推定感染地は国内 2件、イギリス 1件、推定感染経路は性的接触 3件(同性間 2件、異性間 1件)であった。

**ジアルジア症 1件** 年齢は30代、推定感染地は不明、推定感染経路は同性間性的接触であった。

**侵襲性インフルエンザ菌感染症 1件** 血清型は未実施、年齢は5～9歳、推定感染地は国内、推定感染経路は不明、ヒブワクチン接種歴は不明であった。

**侵襲性肺炎球菌感染症 4件** 血清型は未実施 4件、年齢は30代 1件、60代 1件、80代 2件、推定感染地は国内 1件、不明 3件、推定感染経路は不明 4件、肺炎球菌ワクチン接種歴は価数不明1回接種済み 1件、接種なし 1件、不明 2件であった。

**梅毒 72件** 患者 54件(早期顕症梅毒Ⅰ期 36件、早期顕症梅毒Ⅱ期 17件、先天梅毒 1件)、無症候梅毒 18件、性別は男性 38件、女性 34件、年齢は5歳未満 1件、10代 2件、20代 41件、30代 11件、40代 10件、50代 5件、60代 1件、70代 1件、推定感染地は国内 68件、不明 4件、推定感染経路は性的接触 71件(同性間 5件、異性間 61件、性別不明 5件)、母子感染 1件であった。

**麻しん 1件** 病型は検査診断例、年齢は5歳未満、推定感染地は不明、推定感染経路は不明、麻しん含有ワクチン接種歴は接種なしであった。

※ 第3週該当分として〔五類〕梅毒 1件の追加報告があった。

※ 第6週該当分として〔五類〕アメーバ赤痢 1件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 1件、後天性免疫不全症候群 1件、梅毒 1件、百日咳 1件の追加報告があった。

# 定点把握対象疾患 報告数 2024年7週

上段:報告数 下段:定点当たり

定点種別	対象疾患	2024年				報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		4週	5週	6週	7週		
小児科	RSウイルス感染症	11	16	20	27	261	264
		0.04	0.06	0.08	0.10		
	咽頭結膜熱	166	129	93	93		
		0.64	0.49	0.35	0.36		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1,073	1,090	1,074	870		
		4.11	4.18	4.10	3.33		
	感染性胃腸炎	2,805	2,488	2,113	1,611		
		10.75	9.53	8.06	6.17		
	水痘	42	25	53	32		
		0.16	0.10	0.20	0.12		
	手足口病	21	16	21	13		
		0.08	0.06	0.08	0.05		
	伝染性紅斑	21	20	21	21		
		0.08	0.08	0.08	0.08		
突発性発しん	55	65	43	57			
	0.21	0.25	0.16	0.22			
ヘルパンギーナ	1	2	1	4			
	0.00	0.01	0.00	0.02			
流行性耳下腺炎	10	13	13	10			
	0.04	0.05	0.05	0.04			
川崎病 <sup>*1</sup>	2	5	3	2			
	0.01	0.02	0.01	0.01			
不明発しん症 <sup>*1</sup>	6	3	5	7			
	0.02	0.01	0.02	0.03			
インフルエンザ /COVID-19	インフルエンザ <sup>*2</sup>	7,672	8,398	9,475	8,909	415	419
		18.53	20.29	22.83	21.47		
	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	4,667	4,713	3,887	2,865		
	11.27	11.38	9.37	6.90			
眼科	急性出血性結膜炎	1				39	39
		0.03					
	流行性角結膜炎	15	11	16	19		
	0.38	0.28	0.41	0.49			
基幹	細菌性髄膜炎 <sup>*3</sup>	1				25	25
		0.04					
	無菌性髄膜炎		1	1			
			0.04	0.04			
	マイコプラズマ肺炎	3	2	3	2		
		0.12	0.08	0.12	0.08		
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)				1		
					0.04		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス) <sup>*4</sup>							
インフルエンザ入院	50	43	34	48			
	2.00	1.72	1.36	1.92			
COVID-19入院	209	187	160	160			
	8.36	7.48	6.40	6.40			

2024/2/21集計

\*1 不明発しん症、川崎病は東京都が独自に指定する疾患である。

\*2 鳥インフルエンザを除く。

\*3 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

\*4 病原体がロタウイルスであるものに限る。

## ( 今週の注目される定点把握対象疾患 )

- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は、21.47で注意報レベルが続いています。
- ・ 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の定点当たり報告数は、6.90で先週より減少しています。
- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、6.17で先週より減少しています。

## 定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2024年7週

	小児科											
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症
～5か月	4	1	1	10				1				
6～11か月	2	4	1	67			1	17	1			1
1歳	9	8	19	142	3	4		19				2
2歳	1	11	32	136	1	2	3	14		1		
3歳		15	48	124	1	1	1	5		1	1	1
4歳	2	15	73	138		2	1			1		
5歳		8	104	127	3	1				1	1	
6歳	1	9	107	142	2	3	3			1		1
7歳	2	10	117	108	2		5		1	2		1
8歳		2	109	95	1		3		1	1		1
9歳		2	69	71	6		1		1			
10～14歳	2	6	137	190	12		3	1		2		
15～19歳			12	43	1							
20～29歳	4	2	41	218								
30～39歳												
40～49歳												
50～59歳												
60～69歳												
70～79歳												
80歳以上												
合計	27	93	870	1,611	32	13	21	57	4	10	2	7
先週比	7		-204	-502	-21	-8		14	3	-3	-1	2

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	インフルエンザ/COVID-19		眼科			基幹					
	インフル エンザ	新型コロナウイルス 感染症 (COVID-19)	急性出 血性結 膜炎	流行性角 結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジ ア肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院	COVID -19 入院
～5か月	15	20								1	4
6～11か月	34	50									
1歳	117	66								1	2
2歳	129	46								2	
3歳	164	35								2	
4歳	278	41		1						3	4
5歳	371	43								4	2
6歳	528	42								1	
7歳	769	35								4	2
8歳	884	49								4	
9歳	917	58					1			2	
10～14歳	2,958	295		1						6	2
15～19歳	586	201		1						3	3
20～29歳	288	307		3							2
30～39歳	351	330		4				1			5
40～49歳	339	374		6							2
50～59歳	102	355		1						1	11
60～69歳	49	206		1						3	18
70～79歳	17	158		1						7	22
80歳以上	13	154					1			4	81
合計	8,909	2,865		19			2	1		48	160
先週比	-566	-1,022		3			-1	-1		14	

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数【保健所別】 2024年7週

	小児科											
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	川崎病	不明発しん症
千代田	4.00		3.33	0.33			1.00					
中央区	0.33	0.33	3.00	7.00		0.33	0.33	0.33				
みなと	0.17	0.33	2.67	4.17	0.17			0.17				
新宿区	0.13		3.63	4.13				0.13				
文京			3.00	4.75				0.25				
台東		0.25	4.50	11.75			0.25	0.25	0.25			
墨田区			2.00	4.40		0.20		0.40				
江東区		0.11	3.89	7.67	0.33		0.11	0.22				
品川区		0.63	1.50	6.50	0.13					0.13		
目黒区		0.40	2.60	2.20			0.20	0.20				
大田区	0.08	0.23	3.23	7.69	0.15			0.69		0.08		
世田谷	0.06	0.06	2.13	5.06	0.06	0.06	0.13	0.13		0.06		0.06
渋谷区			0.25	4.00	0.25	0.25		0.25				
中野区	0.33	0.50	9.50	6.83	1.00		0.33	1.00	0.17			
杉並		0.73	2.18	5.18	0.45	0.27					0.09	
池袋			1.60	2.00				0.20				
北区	0.14	0.43	7.43	8.29	0.14			0.14			0.14	
荒川区		0.25	4.25	8.25				0.25				
板橋区	0.10		1.50	6.00			0.30	0.10				
練馬区		0.08	2.69	4.38	0.23	0.15	0.08	0.23				0.08
足立	0.17	2.17	2.67	6.33				0.25		0.08		
葛飾区	0.13	0.38	3.75	5.00			0.13	0.25				
江戸川	0.08	0.17	4.67	7.25	0.08	0.08	0.08	0.25				
八王子市		0.45	3.64	9.73	0.27			0.36				0.09
町田市			3.63	6.50	0.13	0.13				0.13		
西多摩			1.50	5.75								
南多摩		0.11	0.78	4.78								
多摩立川	0.07	0.21	4.14	4.64		0.14		0.07	0.07	0.07		
多摩府中		0.33	3.62	7.48	0.14		0.19	0.24		0.19		0.10
多摩小平	0.08	1.08	6.15	9.62				0.31	0.08			0.15
島しょ			1.00									
東京都	0.10	0.36	3.33	6.17	0.12	0.05	0.08	0.22	0.02	0.04	0.01	0.03

	インフルエンザ/COVID-19		眼科		基幹						
	インフル エンザ	新型コロナウイルス 感染症 (COVID-19)	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院	COVID -19 入院
千代田	5.25	5.75									1.50
中央区	8.60	4.40		1.00							
みなと	14.33	5.44					1.00			3.00	12.00
新宿区	8.17	5.25		0.50							5.00
文京	22.14	3.43								1.00	7.00
台東	11.57	4.00									
墨田区	18.88	8.75								2.00	21.00
江東区	11.86	6.21									
品川区	18.42	4.67		1.00							
目黒区	16.00	4.25									
大田区	21.62	6.05								1.00	12.00
世田谷	21.96	4.83		2.00						3.00	5.00
渋谷区	8.43	4.71		1.00						3.00	7.00
中野区	34.10	8.30									
杉並	19.59	5.88					0.50			4.00	6.50
池袋	14.13	9.63		3.00				1.00			
北区	20.55	8.09		1.00							
荒川区	40.86	9.29									
板橋区	15.56	8.00									6.00
練馬区	19.57	6.86									
足立	16.89	9.16		0.50							
葛飾区	18.54	5.46		1.00						2.00	7.00
江戸川	24.53	6.84		0.50							
八王子市	38.44	11.28								2.00	3.00
町田市	28.00	7.31									
西多摩	15.14	7.07								2.00	9.00
南多摩	19.21	7.50		2.00							
多摩立川	27.62	7.52									4.00
多摩府中	24.24	7.00		0.33						4.00	7.33
多摩小平	36.57	6.62		0.50						3.00	7.00
島しょ	2.00	21.00									

東京都	21.47	6.90		0.49			0.08	0.04		1.92	6.40
-----	-------	------	--	------	--	--	------	------	--	------	------



## 定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2024年7週

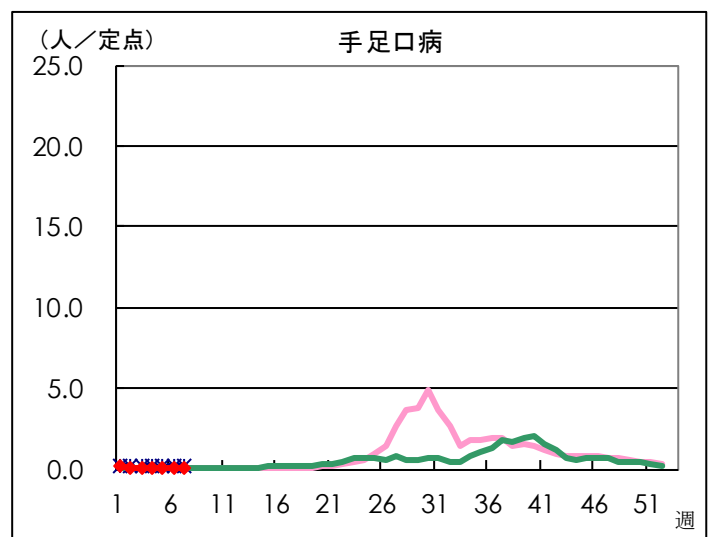
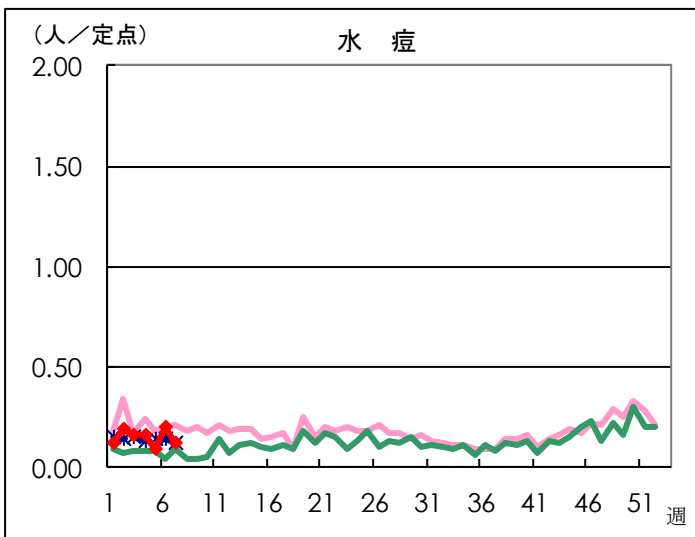
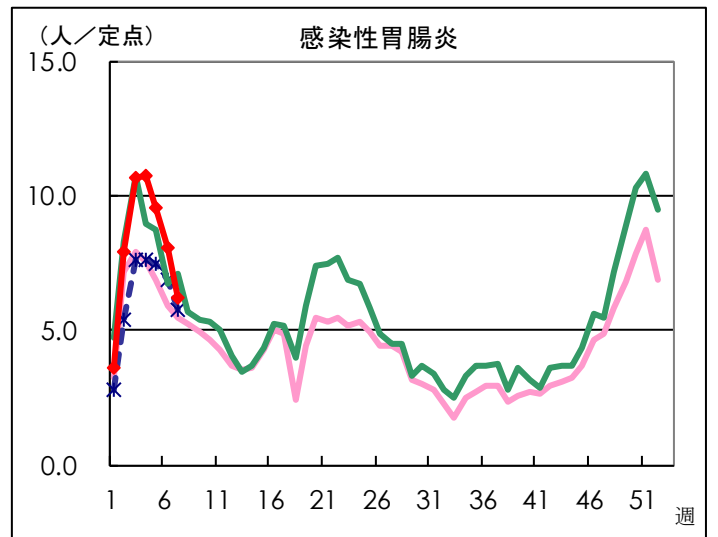
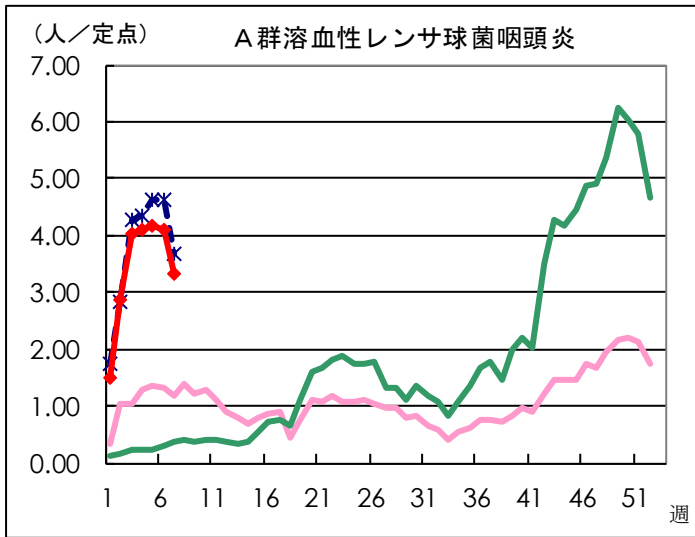
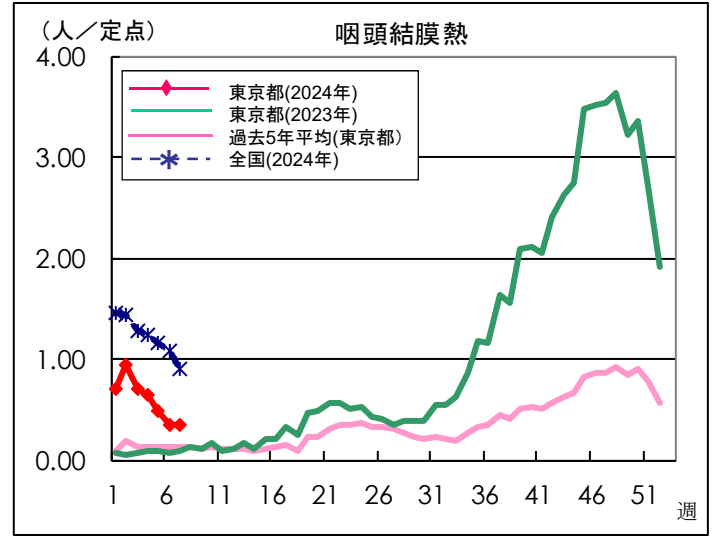
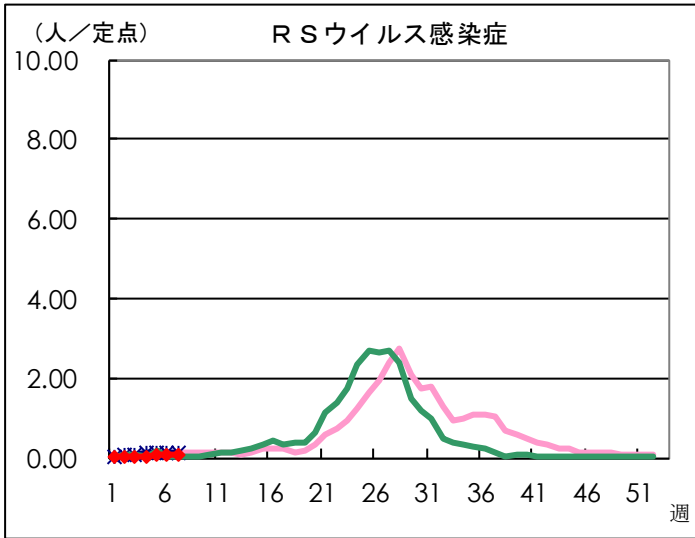
	小児科											
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症
千代田	12		10	1			3					
中央区	1	1	9	21		1	1	1				
みなと	1	2	16	25	1			1				
新宿区	1		29	33				1				
文京			12	19				1				
台東		1	18	47			1	1	1			
墨田区			10	22		1		2				
江東区		1	35	69	3		1	2				
品川区		5	12	52	1					1		
目黒区		2	13	11			1	1				
大田区	1	3	42	100	2			9		1		
世田谷	1	1	34	81	1	1	2	2		1		1
渋谷区			1	16	1	1		1				
中野区	2	3	57	41	6		2	6	1			
杉並		8	24	57	5	3					1	
池袋			8	10				1				
北区	1	3	52	58	1			1			1	
荒川区		1	17	33				1				
板橋区	1		15	60			3	1				
練馬区		1	35	57	3	2	1	3				1
足立	2	26	32	76				3		1		
葛飾区	1	3	30	40			1	2				
江戸川	1	2	56	87	1	1	1	3				
八王子市		5	40	107	3			4				1
町田市			29	52	1	1				1		
西多摩			12	46								
南多摩		1	7	43								
多摩立川	1	3	58	65		2		1	1	1		
多摩府中		7	76	157	3		4	5		4		2
多摩小平	1	14	80	125				4	1			2
島しょ			1									
東京都合計	27	93	870	1,611	32	13	21	57	4	10	2	7

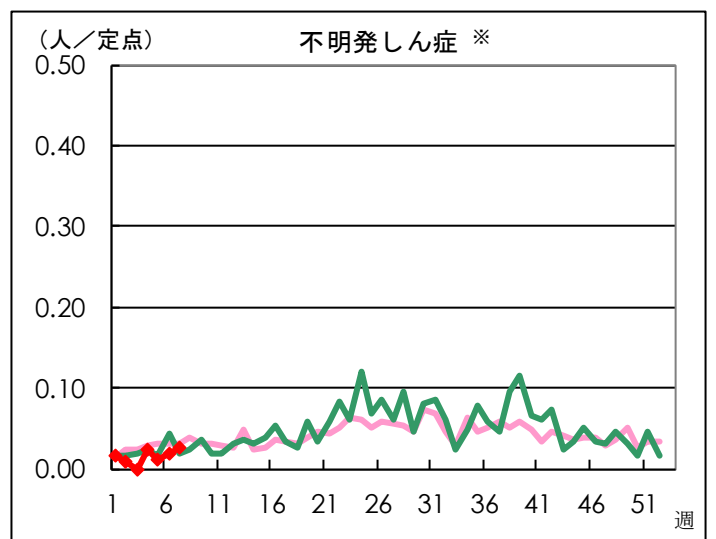
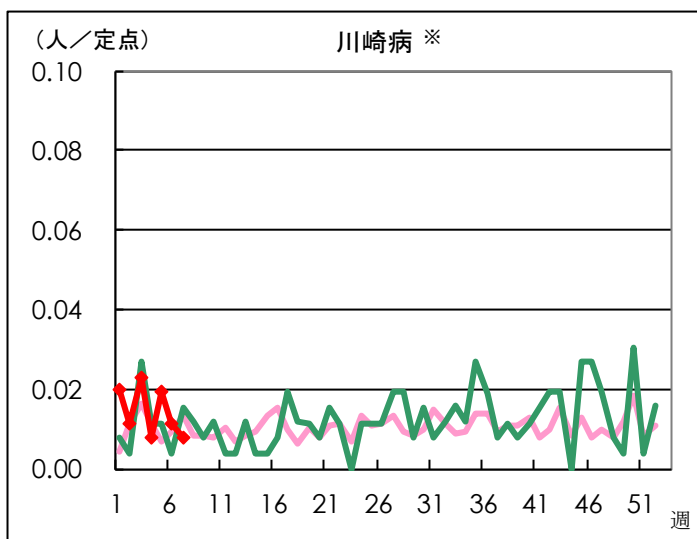
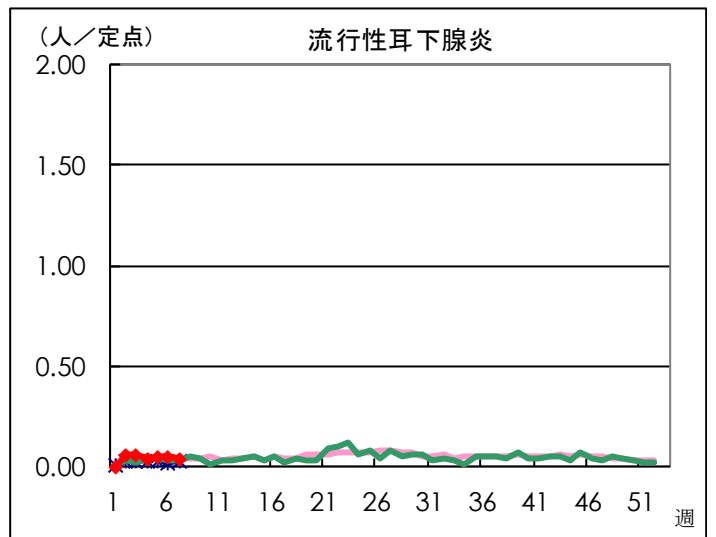
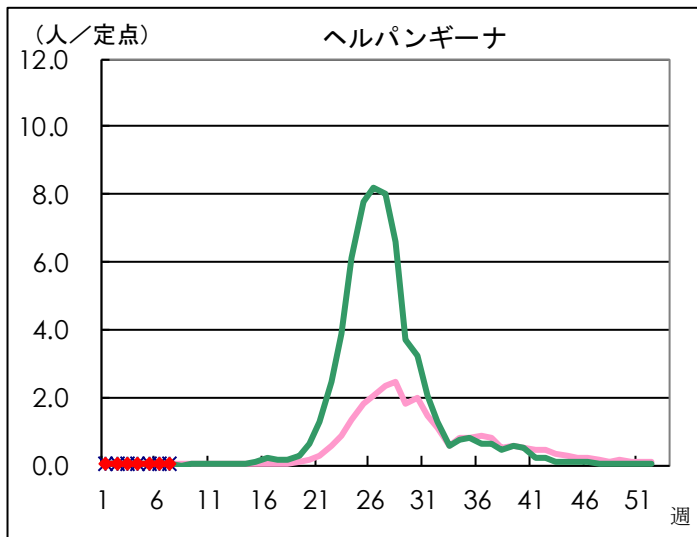
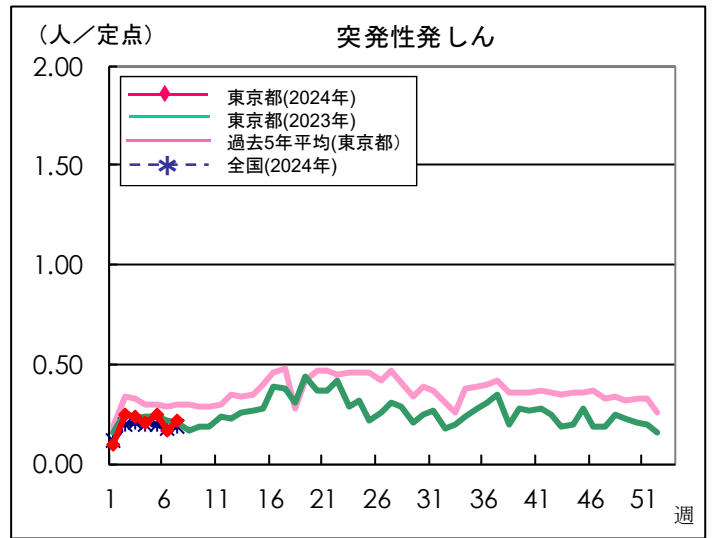
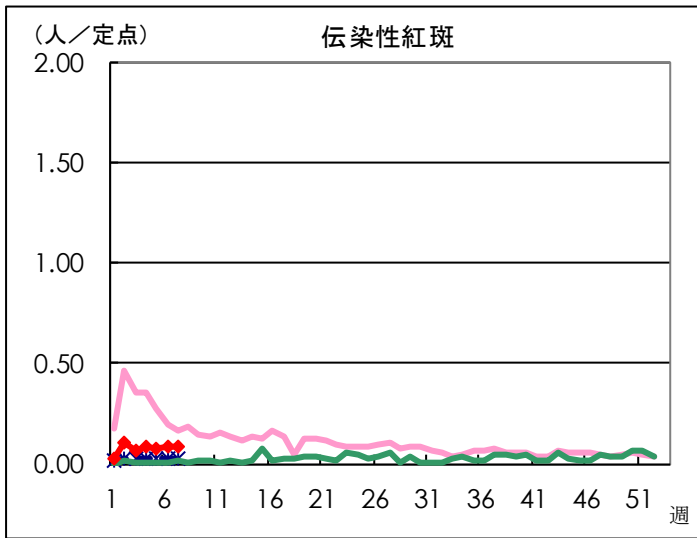
	インフルエンザ/COVID-19		眼科		基幹						
	インフル エンザ	新型コロナウイルス 感染症 (COVID-19)	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院	COVID -19 入院
千代田	21	23									3
中央区	43	22		1							
みなと	129	49					1			3	12
新宿区	98	63		1							10
文京	155	24								1	7
台東	81	28									
墨田区	151	70								2	21
江東区	166	87									
品川区	221	56		1							
目黒区	128	34									
大田区	454	127								1	12
世田谷	527	116		4						6	10
渋谷区	59	33		1						3	7
中野区	341	83									
杉並	333	100					1			8	13
池袋	113	77		3				1			
北区	226	89		1							
荒川区	286	65									
板橋区	249	128									6
練馬区	411	144									
足立	321	174		1							
葛飾区	241	71		1						2	7
江戸川	466	130		1							
八王子市	692	203								2	3
町田市	364	95									
西多摩	212	99								2	9
南多摩	269	105		2							
多摩立川	580	158									4
多摩府中	800	231		1						12	22
多摩小平	768	139		1						6	14
島しょ	4	42									

東京都合計	8,909	2,865		19			2	1		48	160
-------	-------	-------	--	----	--	--	---	---	--	----	-----

# 定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数(2024年7週 現在)

## ◆ 小児科定点

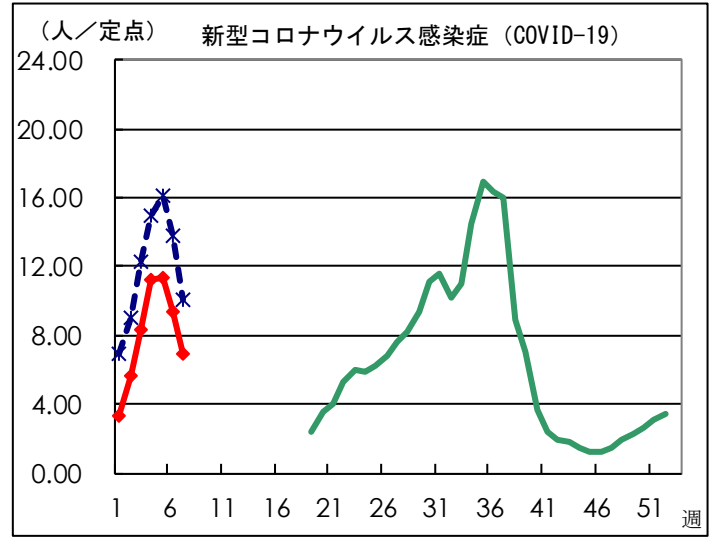
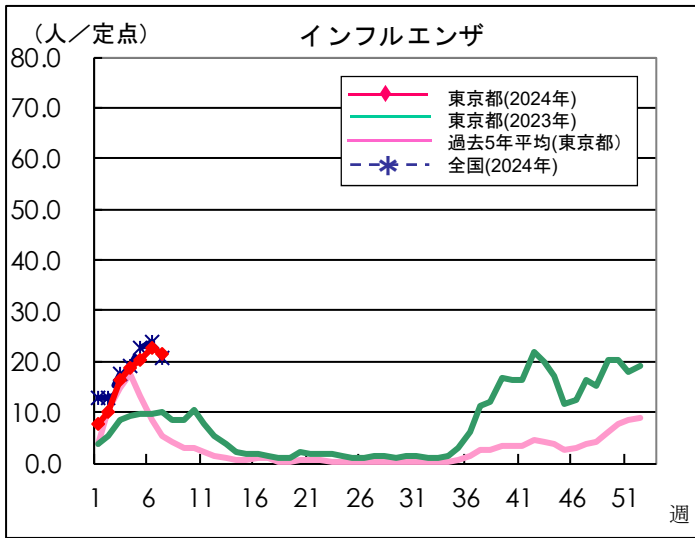




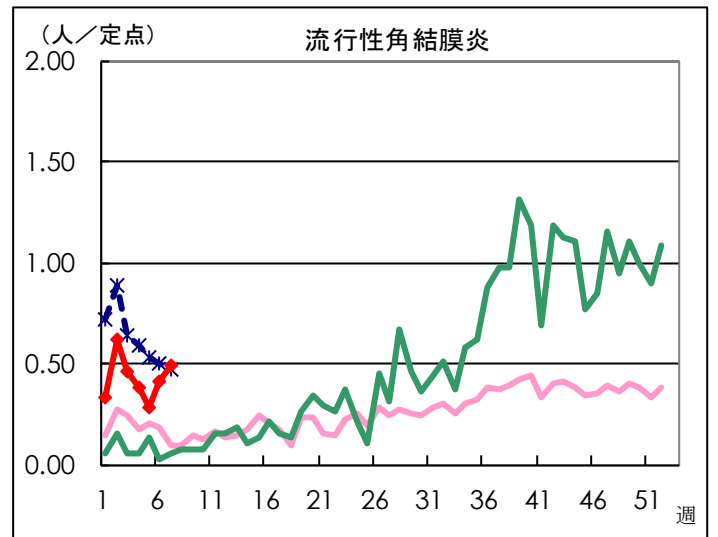
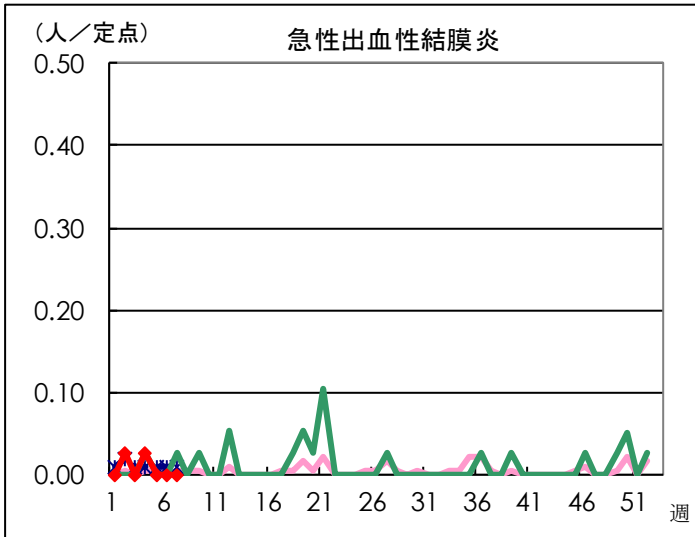
※ 東京都独自対象疾患

※ 東京都独自対象疾患

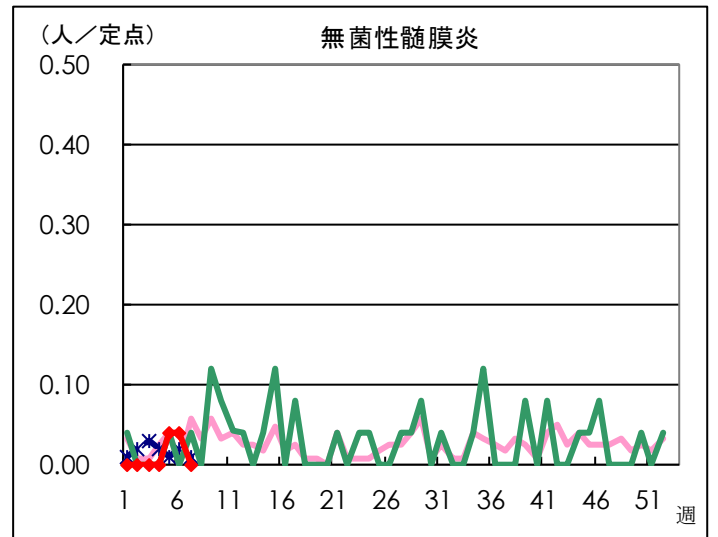
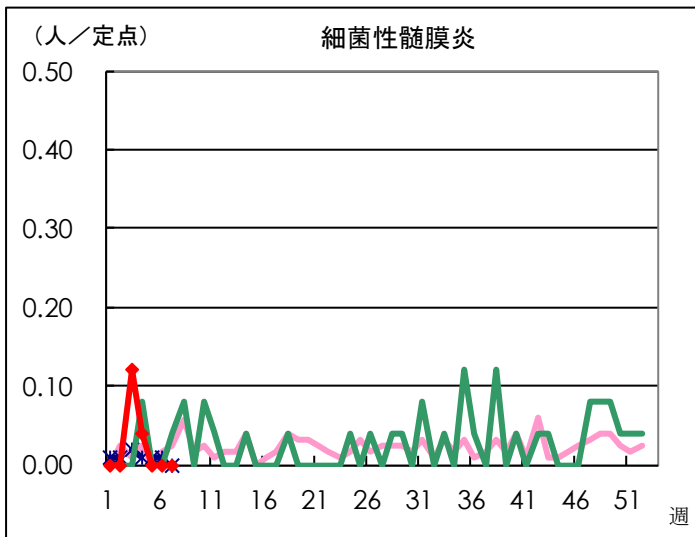
◆ インフルエンザ/COVID-19定点



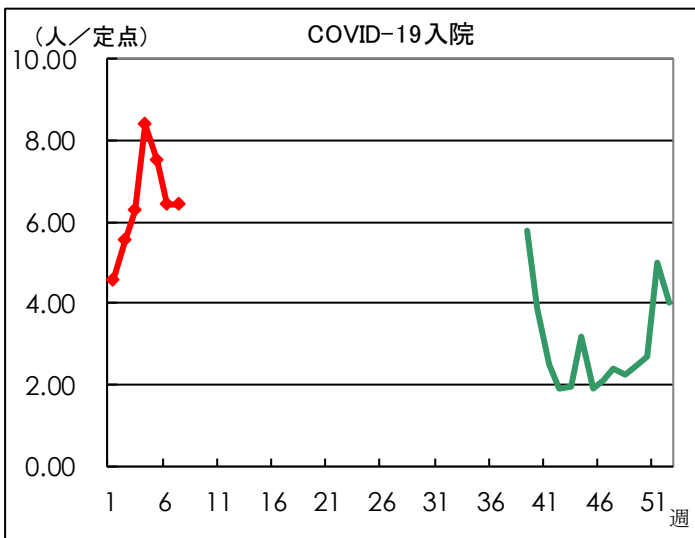
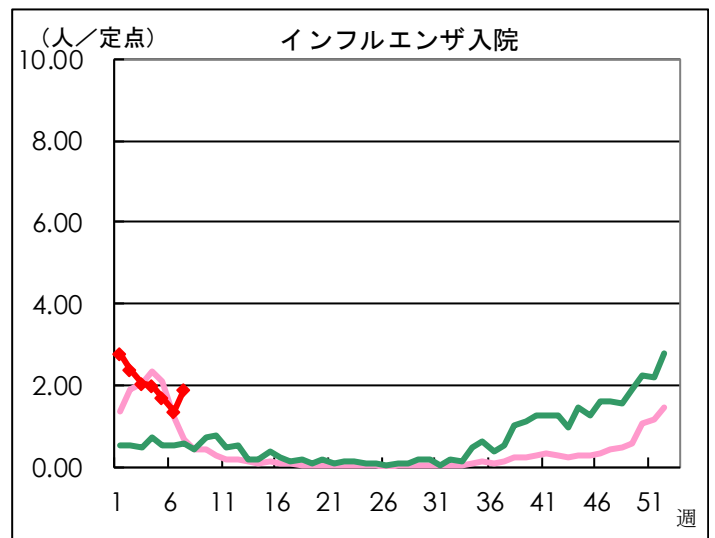
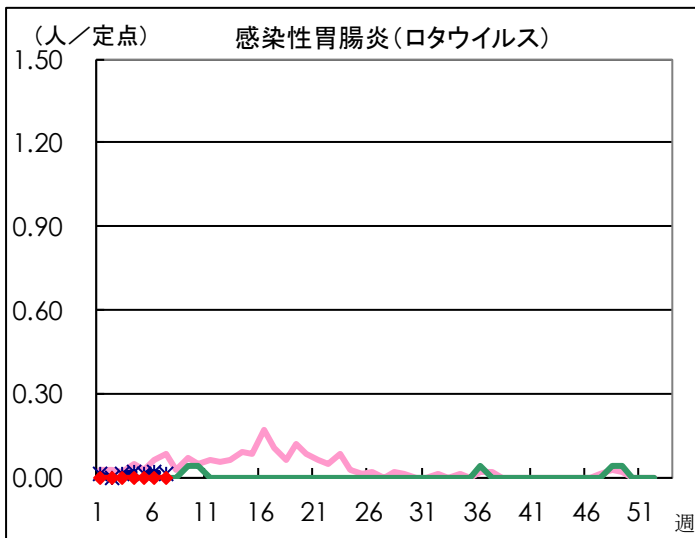
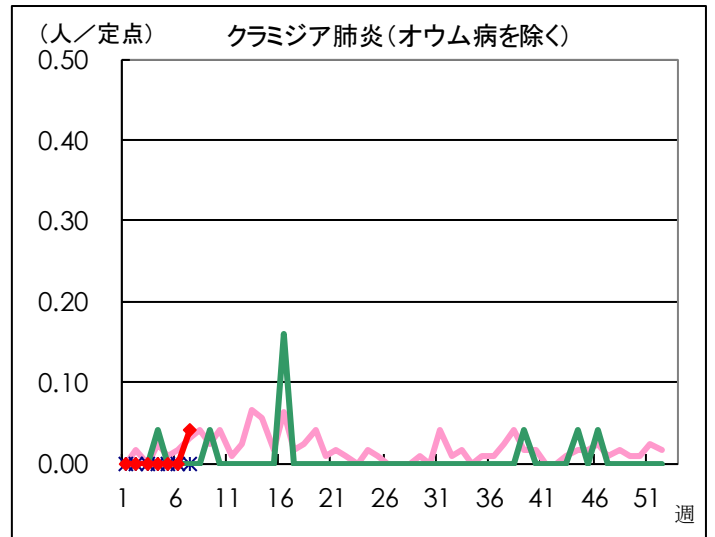
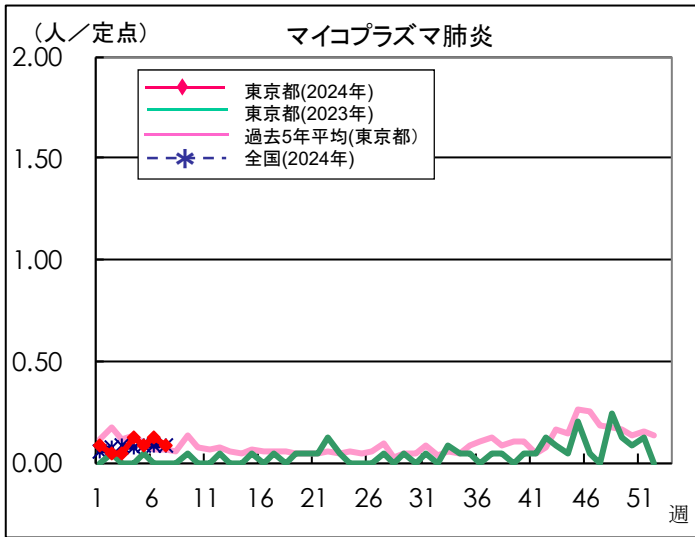
◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



◆ 基幹定点



## 定点医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

採取日	臨床診断名	年齢	検査試料	検出病原体
1/25	インフルエンザ様疾患	58	咽頭拭い液	SARS-CoV-2
1/26	RSウイルス感染症	7M	咽頭拭い液	SARS-CoV-2
1/26	インフルエンザ	21	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスB型Victoria系統※ SARS-CoV-2
1/29	インフルエンザ	10	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH3亜型※ SARS-CoV-2
1/29	インフルエンザ様疾患	34	咽頭拭い液	SARS-CoV-2
1/29	インフルエンザ様疾患	65	咽頭拭い液	SARS-CoV-2

※ 下記「遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数」の集計数に含まれる。

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

	AH1pdm09	AH3亜型	B型Victoria系統	B型Yamagata系統
2024年5週	2	5	12	
2023-2024年 シーズン累計*	103	170	30	

\* 2023-2024年シーズンの開始は第36週(2023年9月4日～)

## 病原体検出情報【週別】

検出病原体	2023年			2024年				
	50週	51週	52週	01週	02週	03週	04週	05週
アデノウイルス	2	4	1	1		2		
コクサッキーウイルスA群								
コクサッキーウイルスB群								
エコーウイルス								
エンテロウイルス71								
その他のエンテロウイルス								
ライノウイルス	2	1	1			1	3	
ヒトメタニューモウイルス								
単純ヘルペスウイルス								
水痘・帯状疱疹ウイルス								
ヒトヘルペスウイルス6型・7型		1						
EBウイルス								
サイトメガロウイルス								
ムンプスウイルス								
麻疹ウイルス								
麻疹A型(ワクチンタイプ)	1							
風疹ウイルス								
風疹1a型(ワクチンタイプ)								
ヒトパルボウイルスB19						1		
RSウイルス								
ノロウイルス		1			1	1		
ロタウイルス								
サボウイルス								
インフルエンザウイルスAH1pdm09	7	8	2		1	7	4	2
インフルエンザウイルスAH3亜型	16	12	8	1	6	7	9	5
インフルエンザウイルスB型Victoria系統	1		1		1	3	9	12
インフルエンザウイルスB型Yamagata系統								
SARS-CoV-2					4	2	3	6
その他のウイルス								
A群溶血性レンサ球菌T-1型			1			1		
A群溶血性レンサ球菌T-3型								
A群溶血性レンサ球菌T-4型								
A群溶血性レンサ球菌T-12型					2		1	
A群溶血性レンサ球菌T-25型								
A群溶血性レンサ球菌T-28型								
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型								
A群溶血性レンサ球菌その他のT型								
A群溶血性レンサ球菌T型別不能								
百日咳菌								
肺炎マイコプラズマ								
肺炎クラミジア								
髄膜炎菌								
B群レンサ球菌								
肺炎球菌								
インフルエンザ菌								
黄色ブドウ球菌								
大腸菌								
その他の細菌								
その他の病原体								



## 病原体検出情報【臨床診断名別】

2023年50週～2024年05週

	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	川崎病	不明発疹	インフルエンザ	インフルエンザ様疾患	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
搬入検体数	1	3	6	5	1		2	1		1			6	120	27		5		1	
アデノウイルス		3											3	1		3				
コクサッキーウイルスA群																				
コクサッキーウイルスB群																				
エコーウイルス																				
エンテロウイルス71																				
その他のエンテロウイルス																				
ライノウイルス													3	3	2					
ヒトメタニューモウイルス																				
単純ヘルペスウイルス																				
水痘・帯状疱疹ウイルス																				
ヒトヘルペスウイルス6型・7型								1												
EBウイルス																				
サイトメガロウイルス																				
ムンプスウイルス																				
麻疹ウイルス																				
麻疹A型(ワクチンタイプ)													1							
風疹ウイルス																				
風疹1a型(ワクチンタイプ)																				
ヒトパルボウイルスB19							1													
RSウイルス																				
ノロウイルス				3																
ロタウイルス																				
サポウイルス																				
インフルエンザウイルスAH1pdm09														30	1					
インフルエンザウイルスAH3亜型														62	2					
インフルエンザウイルスB型Victoria系統														27						
インフルエンザウイルスB型Yamagata系統																				
SARS-CoV-2	1													3	11					
その他のウイルス																				
A群溶血性レンサ球菌T-1型			2																	
A群溶血性レンサ球菌T-3型																				
A群溶血性レンサ球菌T-4型																				
A群溶血性レンサ球菌T-12型																				
A群溶血性レンサ球菌T-25型																				
A群溶血性レンサ球菌T-28型			3																	
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型																				
A群溶血性レンサ球菌その他のT型																				
A群溶血性レンサ球菌T型別不能																				
百日咳菌																				
肺炎マイコプラズマ																				
肺炎クラミジア																				
髄膜炎菌																				
B群レンサ球菌																				
肺炎球菌																				
インフルエンザ菌																				
黄色ブドウ球菌																				
大腸菌																				
その他の細菌																				
その他の病原体																				

## <感染症豆知識>

### 人類と常在菌の共進化

新生児は無菌に近い状態で出生した後、すぐに腸管内に細菌が見られるようになる。最初に腸内で優勢になるのは酸素下でも生育可能な通性嫌気性菌で、その後酸素が消費されてしまうと偏性嫌気性菌が優勢になる。その結果、生後1週間でビフィズス菌が優勢となり授乳中はそれが続く。離乳食が始まると菌の種類は多様化し3歳頃に成人と同様となる。

腸管免疫の成熟には正常な腸管細菌叢の確立が必要であり、それが阻害されると炎症性腸疾患等の消化管疾患だけでなく、喘息等の呼吸器疾患、糖尿病等の代謝性疾患、アトピー性皮膚炎等の皮膚疾患、自閉症等の脳神経疾患などさまざまな疾患の発症と関連することが分かってきた。すなわち腸内常在菌は我々の健康を維持するのに必要不可欠なものなのである。

興味深いのはこれら常在菌の由来である。腸内細菌叢は動物種に特異的とされる。世界各地の人類や類人猿の腸内細菌の系統樹を書くと、霊長類の系統樹と似たものとなることから、人類や霊長類とその常在菌はいわば共進化してきたと考えられる。親から子に常在菌を受け継ぐシステムとしては産道通過時、母子・父子接触時、授乳時等が考えられる。実際、経膣分娩と帝王切開、母乳と人工乳、抗菌剤の使用の有無で新生児の腸内細菌叢に違いが見られ、その影響は比較的長く続くという。

2000年代に次世代シーケンサーが登場し、メタゲノム解析により常在細菌叢への理解が深まってきた。分娩方法、分娩時の抗菌薬の投与、母児接触、授乳、新生児期の抗菌薬の投与等出産前後のイベントが児の常在菌に変化をもたらし、ひいては将来の健康状態に影響する可能性があるのである。周産期医療は元気な母子を送り出したら終わりではないということだ。

(文責 恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター愛育病院副院長 山下隆博)